

桜の樹の下には

梶井基次郎

青空文庫

桜の樹の下には屍したい体が埋まっている！

これは信じていいことなんだよ。何故なぜつて、桜の花があんなにも見事に咲くなんて信じられないことじゃないか。俺はあの美しさが信じられないので、この二三日不安だった。しかしいま、やつとわかる 때가 来た。桜の樹の下には屍体が埋まっている。これは信じていいことだ。

どうして俺が毎晩家へ帰って来る道で、俺の部屋の数ある道具のうちの、選よりに選よってちっぽけな薄っぺらいもの、安全剃刀の刃なんぞが、千里眼のように思い浮かんで来るのか——おまえは

それがわからないと言ったが——そして俺にもやはりそれがわからないのだが——それもこれもやっぱり同じようなことにちがいない。

いったいどんな樹の花でも、いわゆる真つ盛りという状態に達すると、あたりの空気の中かへ一種神秘的な雰囲気を撒き散らすものだ。それは、よく廻った独樂こまが完全な静止に澄むように、また、音楽の上手な演奏がきまつてなにかの幻覚を伴うように、
灼しやく熱つした生殖の幻覚させる後光のようなものだ。それは人の心を撲うたずにはおかない、不思議な、生き生きとした、美しさだ。

しかし、昨日、一昨日、俺の心をひどく陰気にしたのもそれ

なのだ。俺にはその美しさがなにか信じられないもののような気がした。俺は反対に不安になり、憂鬱ゆううつになり、空虚な気持になった。しかし、俺はいまやつとわかった。

おまえ、この爛漫らんまんと咲き乱れている桜の樹の下へ、一つ一つ屍体が埋まっていると想像してみるがいい。何が俺をそんなに不安にしていたかがおまえには納得がいくだろう。

馬のような屍体、犬猫のような屍体、そして人間のようない屍体、屍体はみな腐爛ふらんして蛆うじが湧き、堪たまらなく臭い。それでいて水晶のような液をたらたらとたらしている。桜の根は貪婪どんらんな蝮たこのように、それを抱きかかえ、いそぎんちやくの食糸あつのような毛根を聚めて、その液体を吸っている。

何があんな花卉を作り、何があんな蕊しべを作っているのか、俺は毛根の吸いあげる水晶のような液が、静かな行列を作つて、維管束のなかを夢のようにあがつてゆくのが見えるようだ。

——おまえは何をそう苦しそうな顔をしているのだ。美しい透視術じゃないか。俺はいまようやく瞳ひとみを据えて桜の花が見られるようになったのだ。昨日、一昨日、俺を不安がらせた神秘から自由になったのだ。

二三日前、俺は、ここの溪たにへ下りて、石の上を伝い歩きしていた。水のしぶきのなかからは、あちらからもこちらからも、薄羽かげろうがアフロディットののように生まれて来て、溪の空をめがけて舞い上がつてゆくのが見えた。おまえも知っているとおおり、

彼らはそこで美しい結婚をするのだ。しばらく歩いてみると、俺は変なものに出喰でくわした。それは溪の水が乾いた磧かわらへ、小さい水溜を残している、その水のなかだった。思いがけない石油を流したような光彩が、一面に浮いているのだ。おまえはそれを何だっ
たと思う。それは何万匹とも数の知れない、薄羽かげろうの屍体
だったのだ。隙間なく水の面を被っている、彼らのかさなりあつ
た翅はねが、光にちぢれて油のような光彩を流しているのだ。そこが、
産卵を終わつた彼らの墓場だったのだ。

俺はそれを見たとき、胸が衝つかれるような気がした。墓場を発あば
いて屍体を嗜このむ変質者のような残忍なよろこびを俺は味わつた。

この溪間ではなにも俺をよろこばすものはない。うぐいすしじゅうから鶯や四十雀

も、白い日光をさ青に煙らせている木の若芽も、ただそれだけで、もうろうとした心象に過ぎない。俺には惨劇が必要なんだ。その平衡があつて、はじめて俺の心象は明確になつて来る。俺の心は悪鬼のように憂鬱に渴いている。俺の心に憂鬱が完成するときにばかり、俺の心は和なごんでくる。

——おまえは腋わきの下を拭ふいているね。冷汗あせが出るのか。それは俺も同じことだ。何もそれを不愉快がることはない。べたべたとまるで精液のようだと思つてごらん。それで俺達の憂鬱は完成するのだ。

ああ、桜の樹の下には屍体が埋まつている！

いったいどこから浮かんで来た空想かさっぱり見当のつかない

屍体が、いまはまるで桜の樹と一つになって、どんなに頭を振っても離れてゆこうとはしない。

今こそ俺は、あの桜の樹の下で酒宴をひらいている村人たちと同じ権利で、花見の酒が呑め^のそうな気がする。

青空文庫情報

底本：「檸檬・ある心の風景 他二十編」旺文社文庫、旺文社

1972（昭和47）年12月10日初版発行

1974（昭和49）年第4刷発行

初出：「詩と詩論」

1928（昭和3）年12月

※表題は底本では、「桜の樹《き》の下には」となっています。

※編集部による傍注は省略しました。

入力：j.utiya

校正：earthian

1998年10月10日公開

2016年7月5日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

桜の樹の下には

梶井基次郎

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>